鳥取市差別のない人権尊重の社会づくり協議会・第１回第２部会会議録

日時　平成 24 年 6 月 25 日（月）15：30～16：30
場所　鳥取市役所本庁舎４F 第 4 会議室
出席　一盛委員、上山委員（部長）、田中委員、徳本委員、吉田委員
　　人権推進課係長、人権推進課主幹、男女共同参画課課長補佐、児童家庭課課長補佐、
　　こども発達・家庭支援センター課長補佐、高齢社会課課長補佐、学校教育課係長

部会開会（15：30）

部長選出　部長　委員

○女性の人権問題について

部長　　資料のアンダーラインの意味は

事務局　　先回の方針を変更したところを示しています。

委員　　以前から思っていたが意識調査だけで差別の事態を捉えると、意識の面での実態をひとつ捉えることはできても、差別の実態を捉えることはできないし、すべてを捉えることでもない。
　女性差別の面をみると特に意識の面が遅れている現状があるにもかかわらず、意識のデータだけで差別の実態を書こうとしても問題がある。
　賃金なら賃金、雇用なら雇用といった現状の格差を書いたほうがよい。
　実態を踏まえたら課題等も見えてくるのではないか事実関係を書いたほうがよい。
　女性差別の特徴かもしれないが、深刻な実態と展望の見通しが見えてこない。
　実態に対し意識の緊迫感がない。ここに女性差別の特徴がある。
　意識調査を踏まえた課題の整理はどうなのか。

委員　　今は、市として意識調査はしているが実態調査をしていない現状もあるのではないか。手持ちのデータがないからここに書けないのではないか。現状を語る上では、これでいいと思う。

委員　　課題の整理を行ううえでも、市レベルではないかもしれないが、県レベルなどでは厚労省関係のものがあるかもしれない。
　賃金などもデータも児童扶養手当などの申請状況をみても読みとれるものもあ

る。探せばストックさせているデータはあるのではないか。
　実態こそが問題すべきであるのに、意識を問題にしている。そこを是正して実態を整理していくという方向性がだせればいいと思う。

委員　意識調査によると制度としてはあるのだけれど、なかなか定着しないのは皆がもっている考え方がそうなのだと思う。
性別の固定意識がものすごく高いのだと思し、なかなか進まないのは意識の問題もあると思う。意識調査は、ずっと続けていただきたい。

委員　「意識調査」と実態をセットで読みとらないと、意識のデータの判定ができない。読み方が替わってしまう。制度的に何が遅れているのか、実態をみないとわからない。

委員　現実的にこの素案では、意識だけ変えればいいのだという書き方ではないと思う。ただ、この素案の書き方は事態に則した所もあるのが、所々不満があるので、その個所の意見を出して直していけばいいのではないか。
　この素案に、少し手を入れていけばいいと思う。
　Ｐ４~５の上から７段目からの所について
肯定 21.9・・・・結果となっています。の箇所。この書き方はよくないと思う。前回に比べて肯定が増えているかもしれないが、大きな流れとしては減ってきていると思う。逆に否定的な考えは増えてきていると思う。「肯定的意見が増える結果となっています。」の書き方は全く逆の表現となってしまうと思う。そうなると、次の「また、」は「しかし、」となる。

委員　問題は、この数値（21.9、43.0）をどう読みとるかが現状。数字を比べるだけでなくそれは何を意味しているかを書いて初めてその数字が生きてくる。
　意識調査に偏りすぎる傾向がある。実態を踏まえて意識を分析していったらどうか。そうしないと数値が読みとれないと思う。

委員　実態を追加で書き込むようにすればいいのではないか。
　意識調査を定期的にやることはいいことだと思う。

委員　意識調査の数値があたかも実態と思われ危険である。賃金などの差別がある28.7%はどう分析するのか。実態からすると鳥取県・市は他県に比べ高いとは思わない、低い賃金体系ではないかと思う。そうした実態からこの数値がでてきることを分析しないといけない。数値だけみると前進したかのように捉えることもできる。

委員　　この素案に書いていただきたいのは、いろんなことを推進していくのだということが必要だと思う。

委員　　男女の属性で受け止め方が違うということは大事なことだが、もう一方で女性が深刻に捉えきれないこともある。たとえば保育環境・条件の 28.3%は、子育ては家庭でするものという考えがあって、今の制度ではこんなものと考えている結果だと思っている。28.3%という数値が少ないのは深刻だなと思う。
　数値をどう読みとるかは難しい。

委員　　アンケートなど結果は捉え方によっていろいろな考え方があるが、数字があるほうがわかりやすい。

部長　　素案の修正は、どちら側がおこなうのか。

委員　　どちらでもいいのではないか。今回、素案を事務局側でだしてきているのでこれをもとに修正すればいいのではないか。たとえば、P4 肯定が 21.9・・・・平成 16（2004）年度調査時と比較しても、相変わらず役割固定の意識が強い。というような書き方にしていただければいいと思う。また、実態は初めのほうに入れていくとなどしてはどうか。

委員　　わかる範囲でいいので、市の担当部局が持っているデータを踏まえて、できるだけ実態に即した数値を追記してはどうか。雇用と賃金、保育、育児休暇などできるものがあると思う。なにを引き出せば良いのか考えていくことも必要と思う。特徴的なものを紹介できればいいと思う。

委員　　たとえば男性の育児休暇などは少しではあるは増えているのではないか。

委員　　ただ定義がそれぞれまちまちなのでどうかと思うが、それでも画期的だと思う。

部長　　今は数値がない状態なので言い回しが難しいと思われるので、事務局の方でたたき台を作成してほしい。今回、話をした部分について。今はＰ４がなんとか話がまとまりつつあると思うので次回は、P5・6 を進めたいと思う。この素案を見て「ここはこうしたほうがいい」とか「言い回しがどうだろうか」など考えてきてほしい。基本的にはこの素案に沿ったかたちで修正をかけていく方向で進めたいと思う。

次回、7 月 19 日（木）13：30 から 2 時間程度。　終了（16：30）